部活動を学校で行うための地域人材マッチングサービス

Ver.1.0
株式会社 globeコーポレーション

なぜこのサービスが必要か？

問題点

■活動場所や時間の変更による送迎の負担、安全面の不安
- 地域の施設などに移ると、移動の手間や送迎が必要になる場合がある。
- 活動時間が学校の終業後すぐではなくなる場合、待ち時間が発生する。

■ 仲間関係の変化
- 学校単位ではなくなる場合、これまでの仲間と活動できない可能性がある。
- 新しい環境に馴染めない生徒にとってはストレスになる。

■ 費用負担の増加
- 学校予算で賄われていた用具費・大会参加費などが、自己負担になる場合がある。

■ 学校との一体感の低下
- 部活動が学校から切り離されることで、学校生活の一部としての意識が薄れる。
- 学校行事や定期試験との調整が取りづらくなることもある。

部活動のあり方を見直す

●部活動とは？ 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン - 文部科学省
- 自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成する。
- 自己の力の確認、努力による達成感、充実感をもたらす。
- 互いに競い、励まし、協力する中で友情を深めるとともに、学級や学年を離れて仲間や指導者と密接に触れ合うことにより学級内とは異なる人間関係の形成につながる。

■ 少子化による生徒数の減少
- 学校単位では部員数が足りず、活動が難しくなるケースが増加。
- 同じ競技や仲間を集めるため、学校の枠を超えた活動が必要になった。

→学校内に仲間を求めることは不可能か？

■ 教員の負担増加
- 授業や校務のほかに行われ、教員の長時間労働の一因となっている。

→地域人材とのマッチングは不可能か？

部活動は学校で行うべき

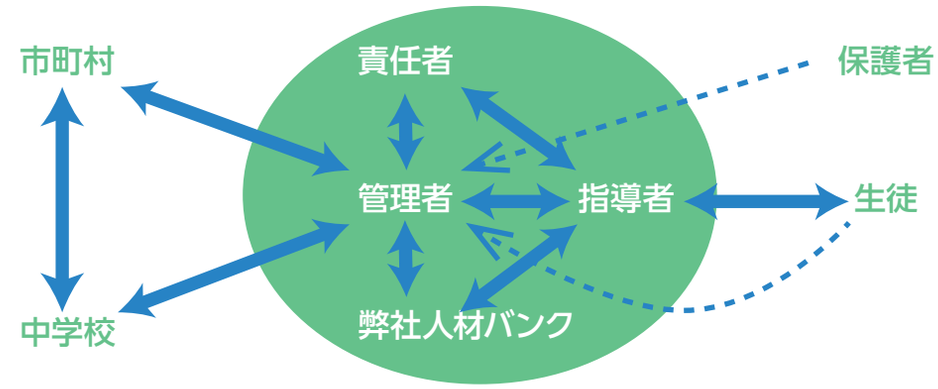
文部科学省の定義に立ち返れば、部活動には競技性を求めるのではなく、学校で行うべきであることは明白。
そのために、「少子化」「教員の負担」の問題をクリアするサービスが必要となる

ソリューション

■ 一人1部活の撤廃

「週3日バスケ、週1サッカー、週末の試合は野球の助っ人」など、参加規定に柔軟に対応することで、自主性や仲間との人間関係の形成も良好に。
多様なスポーツ経験は競技スポーツにも良好な影響を及ぼす。

■ 人材バンクで地域の人材とマッチング

日本版DBSのような、ある一定の基準を定め、人材バンクへの登録を促す。
学校だけではなく、地域との一体感も醸成するメリットも生まれる。

地域人材登用の流れ